

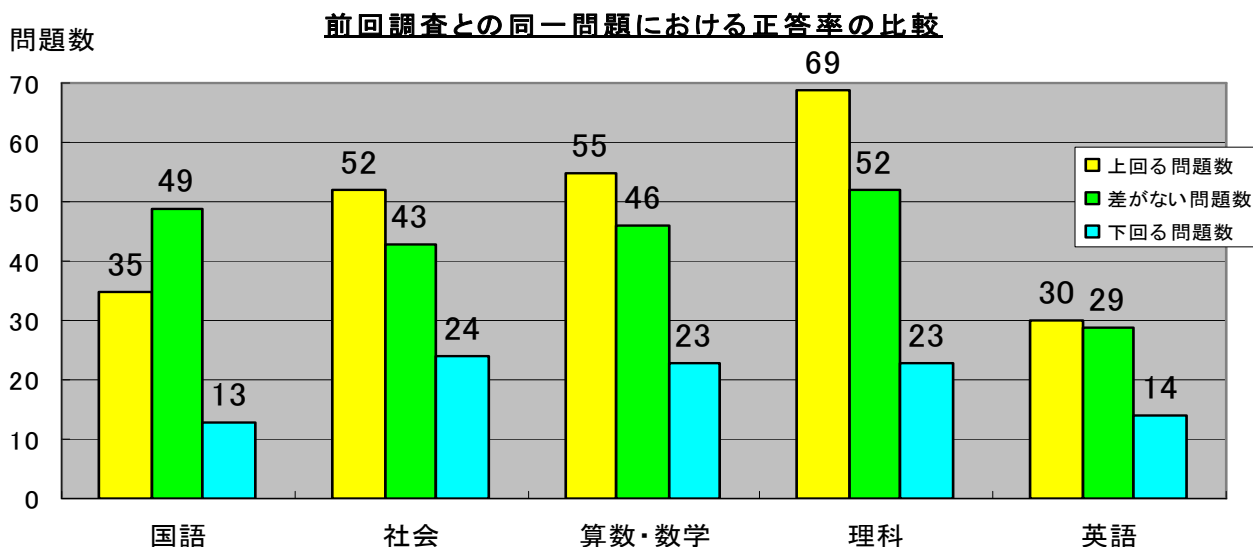
平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査 分析結果のポイント

【調査概要】

- 学習指導要領（H10告示）の目標・内容に照らした児童生徒の学習状況の把握のためにH16.1～2月(今回はH14.1～2月)に実施。
- 小学5年生から中学3年生の各学年を対象に国語、社会、算数・数学、理科、英語（中学のみ）について実施。（約45万人の児童生徒が対象）

【ペーパーテストの概要 その1】

- 前回調査との同一問題に関して、いわゆる正答率の経年変化を比較してみると、
「有意に上回る」問題数は全体の約43%
「有意に差がない」問題数は全体の約39%
「有意に下回る」問題数は全体の約17%



【ペーパーテストの概要 その2】

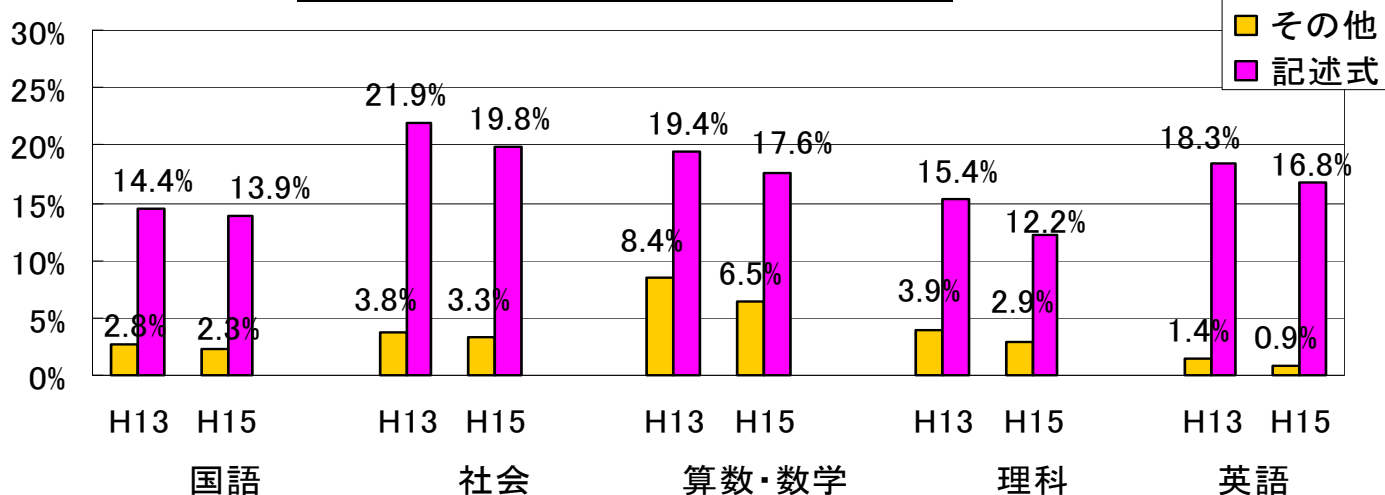
- さらに、前回調査との同一問題に関して、「記述式」の問題と「その他」の問題に分類して、「正答率(平均)」と「無解答率(平均)」の経年変化を比較してみると、大半の教科において、

「正答率」 → 上回っている

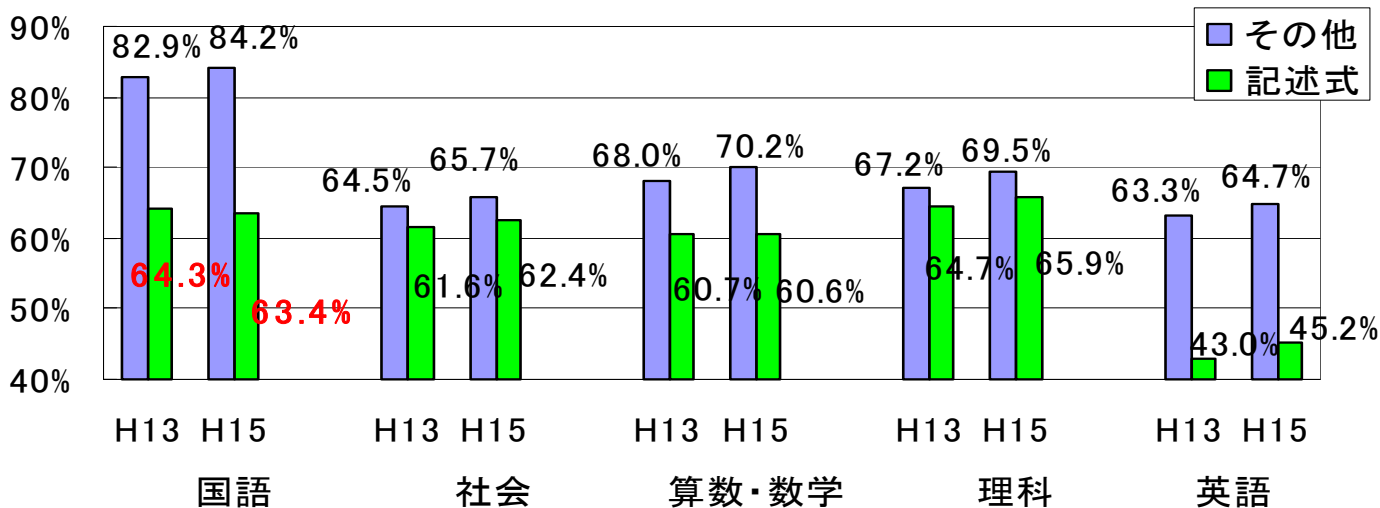
「無解答率」 → 下回っている

- しかし、「記述式」の国語 → 正答率が下回っている

前回調査との同一問題における無解答率の比較



前回調査との同一問題における正答率の比較



各教科における同一問題数

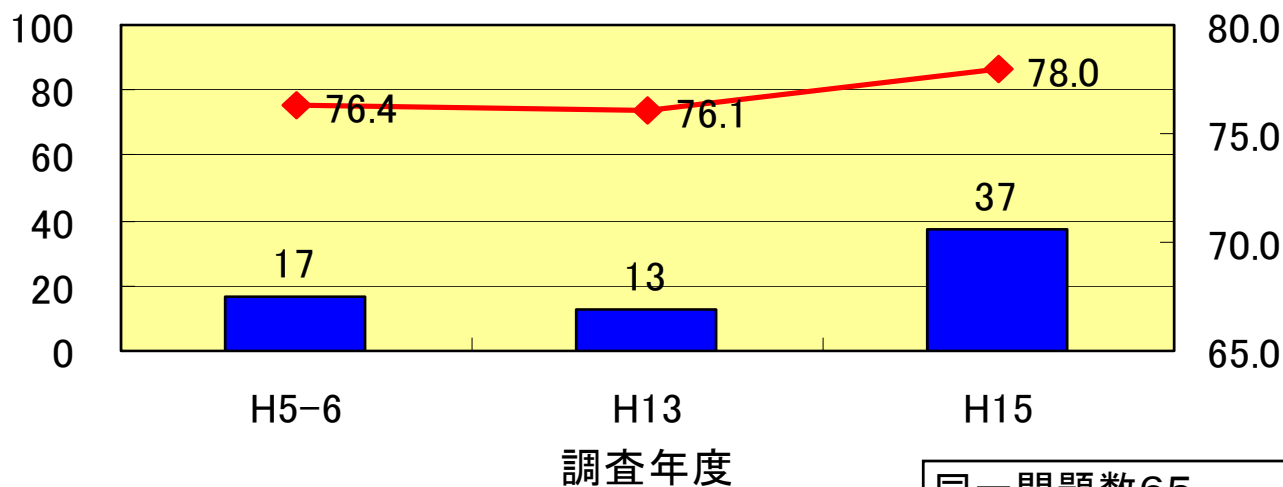
	国語	社会	算数・数学	理科	英語
記述式	23	23	23	28	18
その他	74	96	101	116	55

【ペーパーテストの概要 その3】

○ 前々回調査までの3回の調査の同一問題について、前回と比較すると上回る傾向だが、前々回と比較すると一部で下回っている

小 学 校

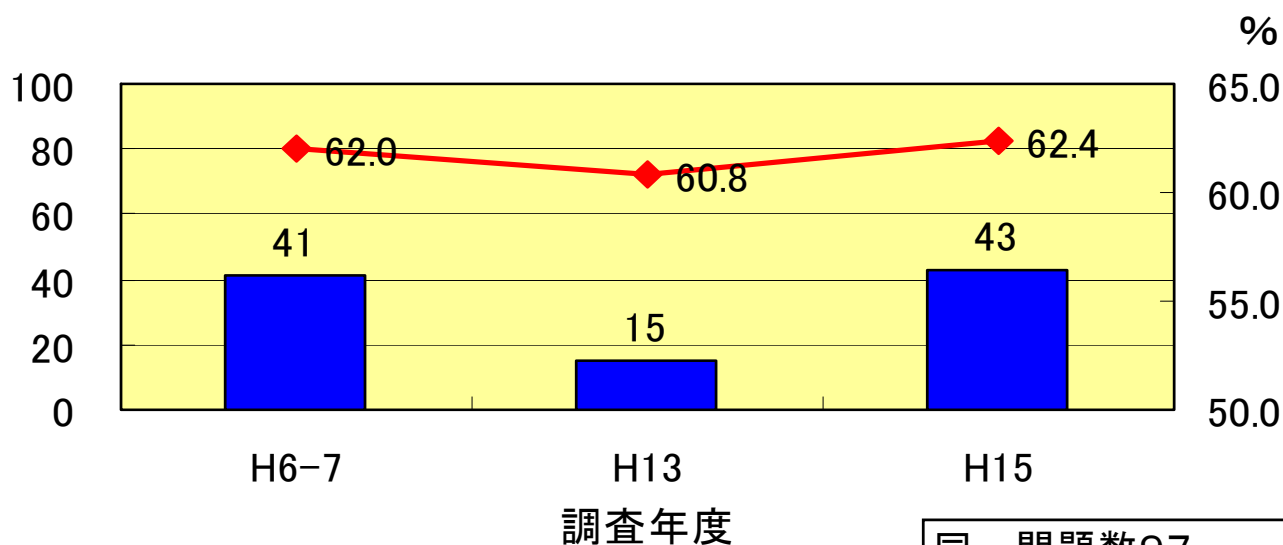
問題数



同一問題数65
(* 同率1位2問)

問題数

中 学 校



同一問題数97
(* 同率1位2問)

【質問紙調査の概要】

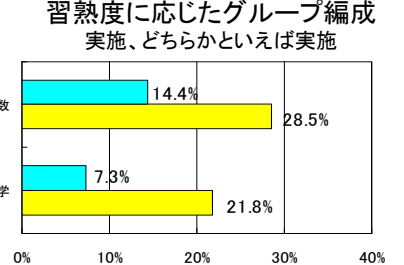
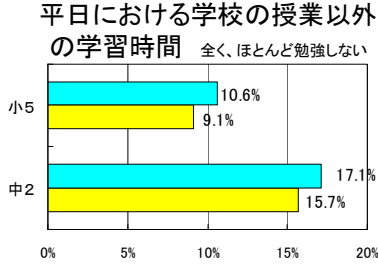
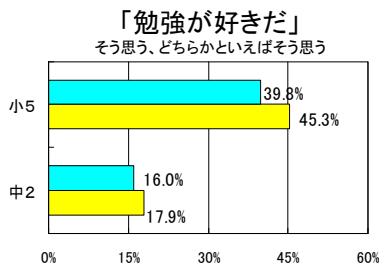
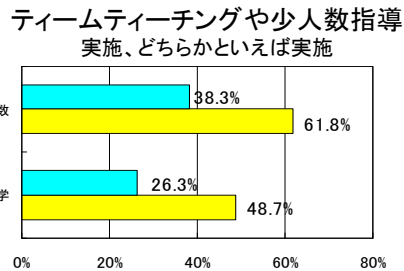
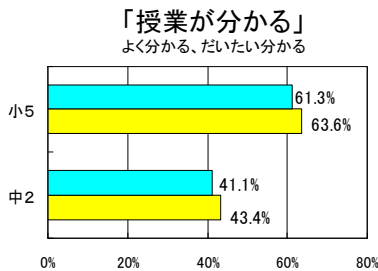
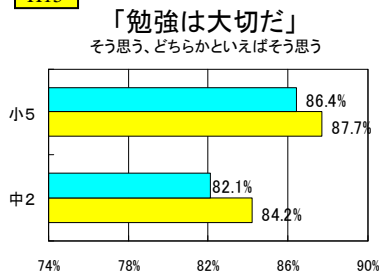
- **勉強が大切だ、好きだと答えた児童生徒の割合が増加傾向**
- **「授業がわかる」と答えた児童生徒の割合が増加傾向**
- **「学校の授業以外でほとんど勉強しない」児童生徒の割合が減少傾向**
- **「チームティーチングや少人数指導」や「習熟の程度に応じた指導」を実施している教師の割合が増加傾向**

H13

《児童生徒 質問紙調査》

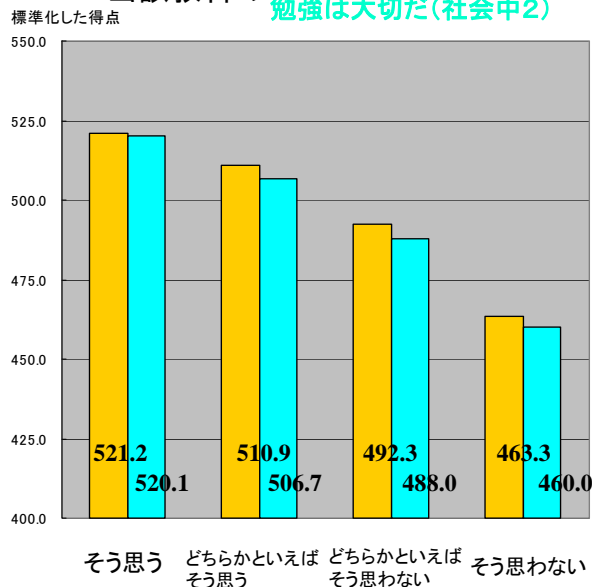
H15

《教師 質問紙調査》

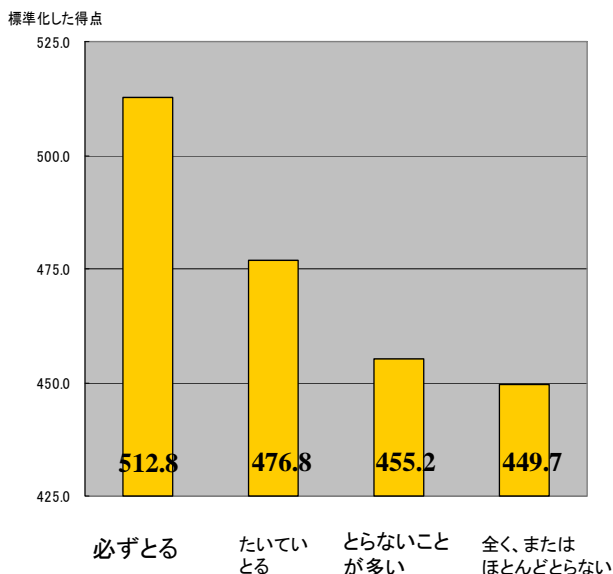


- **勉強が大切だ、好きだと答えた児童生徒についてはペーパーテストの得点が高い傾向**
- **基本的な生活習慣が身についているとうかがえる児童生徒についてはペーパーテストの得点が高い傾向**

当該教科の勉強が好きだ(国語小5) 勉強は大切だ(社会中2)



学校に行く前に朝食をとりますか(英語中2)



高等学校教育課程実施状況調査 結果のポイント

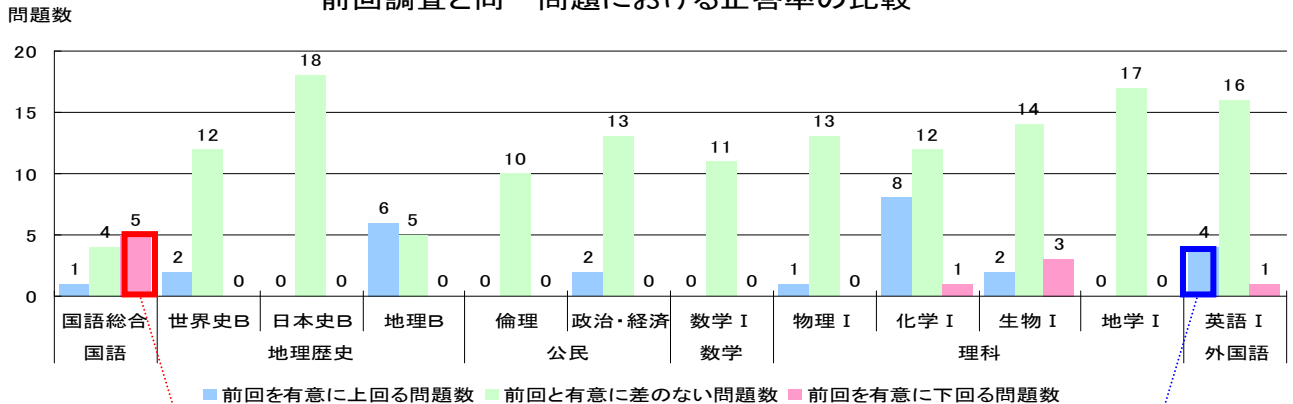
【調査概要】

- 学習指導要領(H11告示, H15入学者より実施)の目標・内容に照らした生徒の学習状況の把握のために, H17.11月に実施。(前回は, H14及びH15.11月)
- 高3生徒を対象に, 国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 外国語の6教科12科目について実施(約15万人の生徒が対象)

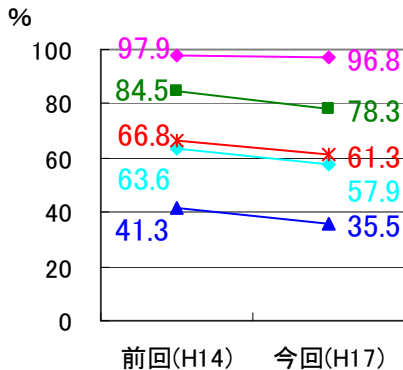
【前回調査との比較】

- 前回調査との同一問題に関して, 正答率の経年変化を比較してみると, 「有意に上回る」問題数は, 全体の約14% (全181問中 26問)
「有意に差がない」問題数は, 全体の約80% (145問)
「有意に下回る」問題数は, 全体の約6% (10問)
- 国語の古典に関する問題の正答率が低下, 英語の「聞くこと」に関する問題の正答率が上昇。

前回調査と同一問題における正答率の比較



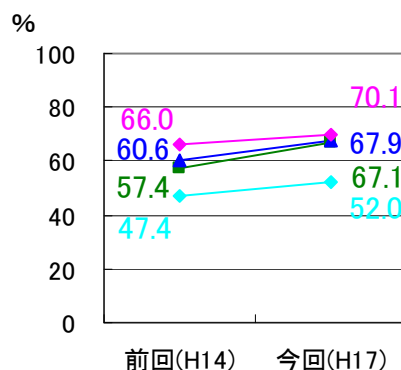
■ 国語総合 前回を有意に下回る問題



- ◆ B3三 文章の内容を叙述に即して的確に読み取る
- B3四 文章の内容を叙述に即して的確に読み取る
- ▲ B3六 人物のものの考え方を表現に即して読み味わう
- ◆ A4-2 文脈に即して漢字を正しく読む(「環境」)
- ✱ B4-3 文脈に即して漢字を正しく書く(「設ける」)

5問中3問が「読むこと」(古典)に関する問題

■ 英語 I 前回を有意に上回る問題



- ◆ B1(3) 英語での話しかけに応答する
- A2(2) 英語を聞いて詳細を理解する
- ▲ A2(3) 英語を聞いて詳細を理解する
- ◆ A3(4) 英語を聞いて概要・要点を理解する

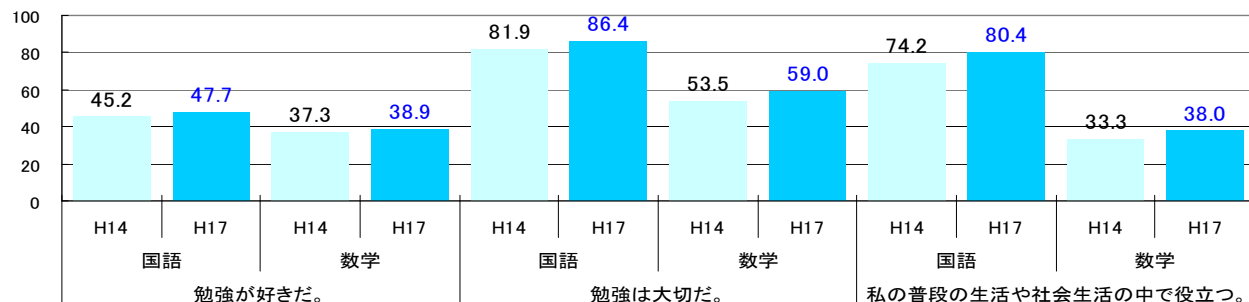
4問すべてが「聞くこと」に関する問題

【学習への意識】

- 前回調査と比べて、「勉強が好きだ」、「勉強が大切だ」、「生活や社会の中で役に立つ」と回答した割合が増加傾向。
- 「授業が(だいたい)分かる」と回答した割合は、前回調査と比べて増加しているが、小・中学校と比べて低い傾向(約25~55%)。

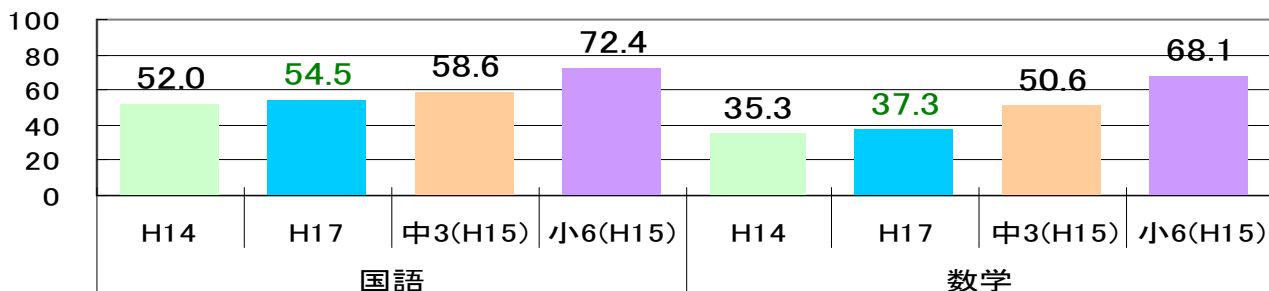
そう思う+どちらかといえばそう思う
の割合(%)

教科の学習への意識



わかる+だいたい
わかるの割合(%)

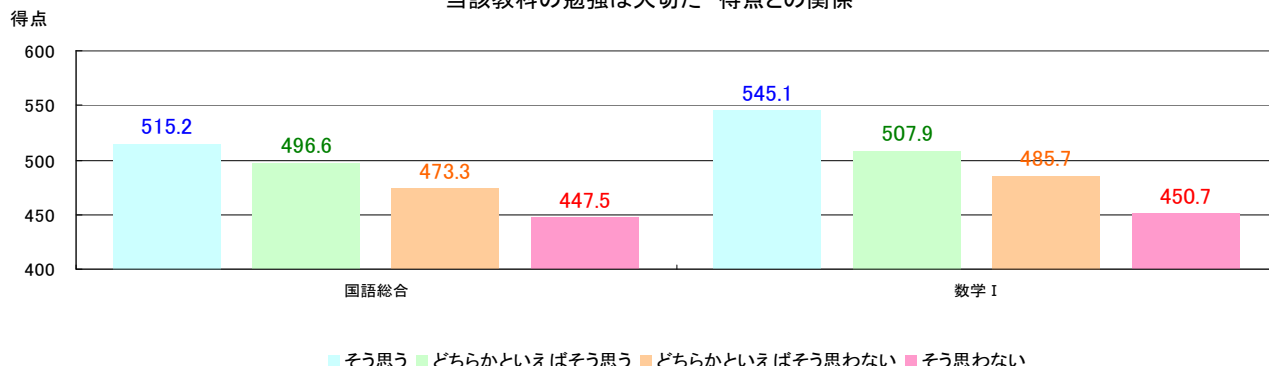
授業の理解度



【学習への意識と得点との関係】

- 「勉強が大切だ」と考える生徒の得点が高い傾向。

当該教科の勉強は大切だ 得点との関係



今回の調査結果の特色と指導改善の具体例

調査結果における主な特色

指導の改善の主な具体例

国語

- 理由や根拠を基に自分の考えを記述する問題で無解答が多い
- 古典を読み味わう能力や古典の言語事項などに課題

- 資料から読み取ったことを、筋道立てて表現する意欲や能力の育成
- 古典の現代的な価値の理解と、古典に親しむ態度や能力の育成

地理歴史

- ヨーロッパ・アメリカの国民国家形成の理解に課題<世界史>
- 中世社会の特色などを資料に基づいて、考察し表現する力に課題<日本史>
- 地図化やグラフ化したりする作業的な学習活動への取組は改善<地理>

- 日常生活、我が国の歴史、現代世界の特質に関連付けた指導<世界史>
- 自ら追究し、理解したことを適切に表現させる指導の充実<日本史>
- 地域の多様性を踏まえた、現代世界の諸課題の学習の充実<地理>

公民

- 自己の体験や自己の生きる課題と関連付けて考察させることに課題<倫理>
- 現代社会の諸課題を資料を活用して追究し、表現することに課題<政経>

- 人間としての在り方へ関心を高め、生き方を探究させる指導の充実<倫理>
- 基本的な概念を踏まえ、議論や発表などを通して追究を深める学習<政経>

数学

- 三角比など基本的な概念や用語・記号の意味の理解に課題
- 事象を式で数学的に表現したり論理的に説明したりすることに課題

- 具体例から一般的な関係や性質を導く授業を工夫
- 解決過程や推論の過程を筋道立てて発表させる活動などの充実

理科

- 実験結果を基に考察したり、グラフに表現したりすることに課題<共通>
- 運動方程式や力学的エネルギー保存の法則などの基本的な理解に課題<物理 I>
- 「酸・塩基、中和」や「酸化と還元」などイオン概念の定着に課題<化学 I>
- 遺伝の法則や、遺伝子と染色体の位置関係の理解に課題<生物 I>
- 台風や地球の熱収支などで、データを読み取り、考察することに課題<地学 I>

- 目的意識をもった実験、結果の考察など、科学的な思考を育むための指導の工夫や探究活動の充実<共通>
- 図や表などのデータを正しく読み取り、グラフ化、文章化するなど、科学的に解釈し、表現する力の育成<共通>
- 日常生活や既習の学習内容に結びつけて、基礎的な事項の定着を図る指導の充実<共通>

外国語

- 英語を聞いたり、文章を読んで概要・要点を理解することは定着
- 内容を考えて書くことや、指定された状況や文脈に応じて書くことに課題

- 意味をとらえた応答や、情報を整理しながら要点を理解させる指導
- 様々なトピックを設定し、書く意欲や表現力に応じた指導の工夫

家庭での学習等

平日における学校の授業以外の学習時間（塾等の勉強時間を含む）

全く、または、ほとんど勉強しない生徒の割合は、前回調査と比べ、減少傾向。一方、3時間以上勉強する生徒の割合は、前回調査と比べ、増加傾向。

学校の授業時間以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか（単位％）

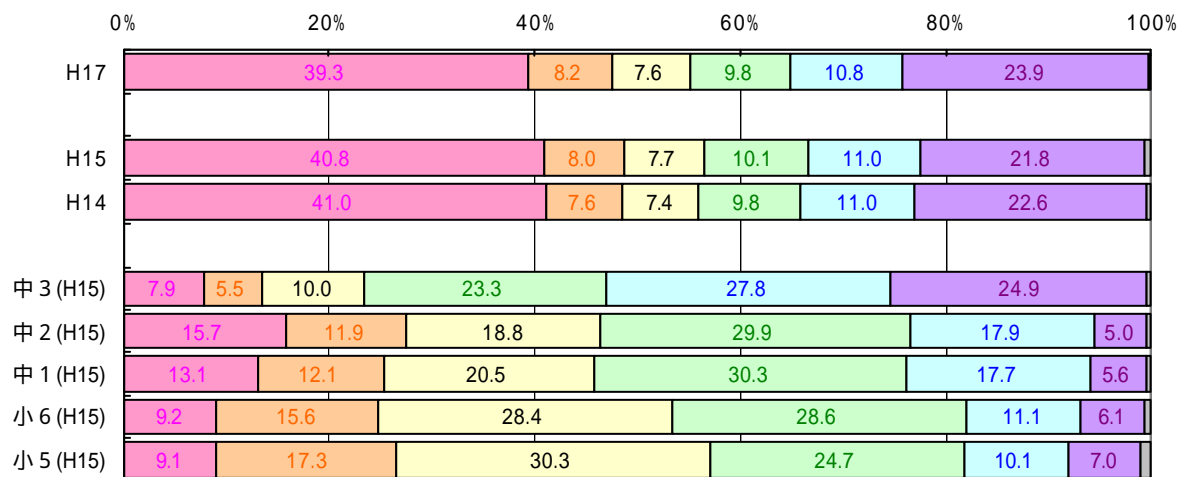
区分	全く、または、 ほとんど しない	30分より 少ない	30分以上、 1時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	3時間以上	無回答
H17	39.3	8.2	7.6	9.8	10.8	23.9	0.3
H15	40.8	8.0	7.7	10.1	11.0	21.8	0.6
H14	41.0	7.6	7.4	9.8	11.0	22.6	0.5

（参考）平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査

学校の授業時間以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか（単位％）

区分	全く、または、 ほとんど しない	30分より 少ない	30分以上、 1時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	3時間以上	無回答
中3	7.9	5.5	10.0	23.3	27.8	24.9	0.4
中2	15.7	11.9	18.8	29.9	17.9	5.0	0.5
中1	13.1	12.1	20.5	30.3	17.7	5.6	0.5
小6	9.2	15.6	28.4	28.6	11.1	6.1	0.7
小5	9.1	17.3	30.3	24.7	10.1	7.0	1.0

学校の授業時間以外に、1日にだいたいどのくらい勉強しますか



- 全く、または、ほとんどしない
- 30分より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 2時間以上、3時間より少ない
- 3時間以上
- 無回答

確かな学力の向上のための2002アピール
「学びのすすめ」(平成14年1月17日)

- 5つの方策 -

1 きめ細かな指導で、基礎・基本や自ら学び自ら考える力を身に付ける

少人数授業・習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな指導の実施を推進し、基礎・基本の確実な定着や自ら学び自ら考える力の育成を図る

2 発展的な学習で、一人一人の個性等に応じて子どもの力をより伸ばす

学習指導要領は最低基準であり、理解の進んでいる子どもは、発展的な学習で力をより伸ばす

3 学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高める

総合的な学習の時間などを通じ、子どもたちが学ぶ楽しさを実感できる学校づくりを進め、将来、子どもたちが新たな課題に創造的に取り組む力と意欲を身に付ける

4 学びの機会を充実し、学ぶ習慣を身に付ける

放課後の時間などを活用した補充的な学習や朝の読書などを推奨・支援するとともに、適切な宿題や課題など家庭における学習の充実を図ることにより、子どもたちが学ぶ習慣を身に付ける

5 確かな学力の向上のための特色ある学校づくりを推進する

学力向上フロンティア事業などにより、確かな学力の向上のための特色ある学校づくりを推進し、その成果を適切に評価する

学習指導要領の一部改正のポイント

中央教育審議会答申

「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」
の提言を受けて改正（平成15年12月26日告示）

基礎・基本を徹底し、自ら学び自ら考える力など[生きる力]を
育成する新学習指導要領のねらいのより一層の実現のために

「基準性」とは、学習指導要領に明示されている
共通に指導すべき内容を確実に指導した上で、
子どもの実態を踏まえ、明示されていない内容を
加えて指導することもできるという性格

「基準性」の一層の明確化

○ 学校において特に必要がある場合には、学習指導要領に示していない内容も必要に応じ指導できることの明確化（補充・発展、深化・応用など）

「総合的な学習の時間」の一層の充実

○ 総合的な学習の時間のねらいとして各教科等との関連付け等を明確化
○ 各学校ごとに目標及び内容等を示す全体計画の作成
○ 子どもの実態と状況に応じた適切な指導と学校外の教育的資源の積極活用

「個に応じた指導」の一層の充実

○ 習熟度別指導や発展学習・補充学習を取り入れた指導など、個に応じた指導を柔軟かつ多様に導入

【確かな学力】とは、知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力までを含むもので、学ぶ意欲を重視した、これからの子どもたちに求められる学力

○基礎的・基本的な内容の確実な定着に必要な指導時間の確保（各教科＋学校行事等）
○時間割の見直し、短縮授業の見直し等の工夫

「わかる授業」を行い、[確かな学力]を育成
特色ある教育・学校づくりを推進

国語力の育成、理数教育の充実など総合的な学力向上策の推進

平成19年度予算額 10,251,659千円(8,018,677千円)

～新学習指導要領の周知～

○新学習指導要領の理解を図るため、各学校段階における各教科等の学習指導要領解説書等の作成、新教育課程説明会の開催、オンライン学習指導要領の作成等を行う。

～学力向上アクションプランの推進～

平成19年度予算額 9,834,225千円(7,696,683千円)

個に応じた指導の充実

～習熟度別指導などのきめ細かな指導を実現～

○学力向上拠点形成事業

- ・確かな学力育成のための実践研究事業
- ・わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム

個性・能力の伸長

～特定分野において卓越した人材を育成～

- スーパーサイエンスハイスクール
指定校数 100校
- スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(再掲)
指定校数 110校

学力の質の向上

～学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高めるとともに、学びの質を向上させる～

- 学習意欲の向上(拡充)
- 理科支援員等配置事業(新規)
- ティーチャーズ・サイエンスキャンプ(理科教員指導力向上研修)(新規)
- 理科教材開発・活用支援(拡充)
- 地域の科学舎推進事業(拡充)(継続)
- 学力向上拠点形成事業(再掲)
- 総合的な学習の時間の推進
- サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト
- 理数大好きモデル地域事業

確かな学力の向上

- 揺るぎない基礎・基本
- 思考力、判断力、表現力、問題解決能力
- 生涯にわたって学び続ける意欲
- 得意分野の伸長
- 旺盛な知的な好奇心、探究心

国語力・英語力の増進

～英語によるコミュニケーション能力の飛躍的向上とその基盤となる国語力の増進～

- 国語力向上モデル事業
20地域
- スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール
指定校数 110校
- 小学校英語活動地域サポート事業
3地域

外部人材の協力による学校現場の活性化

～学校現場に外部人材を導入し、学校を含めた地域の教育力の活性化を図る～

- 学力向上拠点形成事業(再掲)
- 総合的な学習の時間の推進(再掲)
- 理科支援員等配置事業(再掲)
- サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(再掲)
- スーパーサイエンスハイスクール(再掲)
- 理数大好きモデル地域事業(再掲)

「確かな学力」の向上のための様々な施策

- 1 新教育課程に関する基礎調査研究
- 2 教育課程の実施状況等に関する総合的な調査研究
- 3 学校教育情報化推進総合プラン
- 4 教員養成の改革関係経費 等

生徒の学習到達度調査 (P I S A 2 0 0 3) (経済協力開発機構 (O E C D) 実施)

我が国の学力は、全体として国際的に見て上位。(高1を対象)

ただし、読解力など低下傾向にあり、世界トップレベルとは言えない状況。

授業を受ける姿勢は良いが、学ぶ意欲や学習習慣に課題。

1 . 平均得点の国際比較 (4 1 力国 ・ 地域参加)

数学的活用能力 (前回 1 位)	1 位グループ / 香港、フィンランド、韓国、オランダ、リヒテンシュタイン、日本 (6 位)
読解力 (前回 8 位)	O E C D 平均と同程度 (1 4 位)
科学的活用能力 (前回 2 位)	1 位グループ / フィンランド、 <u>日本 (2 位)</u> 、香港、韓国
問題解決能力 (今回から実施)	1 位グループ / 韓国、香港、フィンランド、 <u>日本 (4 位)</u>

2 . アンケート調査の結果

学ぶ意欲

	数学で学ぶ内容に興味がある生徒
日本	32.5%
O E C D 平均	53.1%

生徒が授業を受ける姿勢

	先生は生徒が静まるまで長い時間待つ			
	いつもそうだ	たいていそうだ	たまにある	ほとんどない
日本	3.9%	9.6%	34.8%	50.4%
O E C D 平均	12.0%	19.2%	41.5%	24.8%

学校以外の勉強時間

日本	6.5 時間 / 週
O E C D 平均	8.9 時間 / 週

国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS 2003) (国際教育到達度評価学会 (IEA) 実施)

我が国の児童生徒の学力は、国際的に見て上位。ただし、小学校理科、中学校数学は前回より得点が低下。(小4、中2を対象)
学ぶ意欲や学習習慣に課題。
テレビやビデオを見る時間が長く、家の手伝いをする時間が短い。

(1) 我が国の成績

算数・数学の成績

	小学校	中学校
昭和39年(第1回)	実施していない	2位 / 12国
昭和56年(第2回)	実施していない	1位 / 20国
平成7年(第3回)	3位 / 26国	3位 / 41国
平成11年(第3回追調査)	実施していない	5位 / 38国
平成15年(第4回)	3位 / 25国	5位 / 46国

理科の成績

	小学校	中学校
昭和45年(第1回)	1位 / 16国	1位 / 18国
昭和58年(第2回)	1位 / 19国	2位 / 26国
平成7年(第3回)	2位 / 26国	3位 / 41国
平成11年(第3回追調査)	実施していない	4位 / 38国
平成15年(第4回)	3位 / 25国	6位 / 46国

(2) 数学・理科に対する意識

	勉強は楽しいと思う		得意な教科である	
	数学	理科	数学	理科
中学校	39%	59%	39%	49%
国際平均	65%	77%	54%	54%

(3) 学校外での時間の過ごし方

	宿題をする	テレビやビデオを見る	家の手伝いをする
中学校	1.0時間 / 日	2.7時間 / 日	0.6時間 / 日
国際平均	1.7時間 / 日	1.9時間 / 日	1.3時間 / 日